

## —如何看待末期医疗 —

有一天，在电车里的广告宣传上，看到了某杂志的这样一个标题，“如何在这个国度迎接死亡”，于是我直奔书店买下了那本杂志。杂志是以各种各样的人写的文章而构成的，任何人也无可避免的死这一主题作为题材，使我们联想到如何对于生与死。)其中，一名医生就末期医疗所说的一席话，给我留下了深刻的印象。

所谓末期医疗，是指面向患有不治之症，或是年势很高、即将迎来人生终焉的人们所实施的医疗行为。据说这类医疗除了缓和患者的疼痛（缓和治疗）以外，还包括延命治疗这一比较复杂的课题。而延命治疗，是指对那些被认为如果不采取措施，则必将死去的病患所实施的、延长其生存时间的医疗手段。以往，日本人大都是在自己的家里迎来生命的最后一刻，那时的医疗设备及技术也十分有限；而今，据说大约 80% 的日本人是在医院或各类设施里告别人世的。高度发达的医疗技术，使延命变得容易了。只是，一般情况下，我们并没有机会对延命这种医疗手段进行了解。

延命医疗的种类很多。众所周知的是，给呼吸能力变弱的病患插人工呼吸器；为无法进食的病患插鼻管或是在胃壁上穿一个空，为其输入流食等；此外，为了进行药物治疗，往往给病人挂瓶打很多种类的点滴。病患身上接着许多医疗器械、浑身插满管子，无法挪动身体，同时也伴随着很大的痛苦。有一名医生说，她刚开始在疗养型医院（※注）任职的时候，看到 70% 的病患都是在无法说话的状态下长期卧

## — 終末期医療を考える —

ある日、電車の広告の中に「この国で死ぬということ」という雑誌のタイトルを見つけ、本屋に向かいました。内容は、さまざまな立場の人の文章で構成され、誰にでも訪れる死を題材に、どう生きるか、どう死ぬかについて考えさせるものでした。中でも終末期医療についての医師の話が心に残りました。

終末期医療とは、不治の病や高齢のため死期が迫ってきた人たちへの医療行為を指すもので、痛みを取り除く治療（緩和治療）の他、延命治療という難しい問題を含んでいます。延命治療とは、そのまま放置すれば死が確実と思われる場合、死を先に延ばすための治療のことです。かつて、自宅で最期を看取るのが普通だった頃の日本では、医療的な処置も限られていたのですが、現在の日本では、約 80% の人が病院や施設で最期を迎えるといわれています。高度な医療技術は、患者の延命を容易にしました。しかし、普通私達は、延命治療の実態について知る機会がありません。

延命治療にはさまざまなものがあります。一般に知られているのは、自分で呼吸する力が弱くなったら人工呼吸器をつける、食べ物を飲み込むことができなくなったら鼻から管を通して、胃壁に穴を開けて流動食を入れるという方法です。また薬品の投与のために点滴を何本も付けるそうです。患者さんは機械やチューブにつながれて、自由に身動きが取れなくなり、苦

床，并通过插管子来摄取营养，因此她受到很大的打击而改变了自己的人生观。当然，人们可以自由选择是否接受延命治疗。问题是，当需要进行延命治疗的时候，患者本人是否有能力表明自己的态度。不仅仅是认知症患者，那些因脑疾患或心脏病发作而突然昏迷的人，能够自由地做出选择吗？据说当医生问患者的家人，是否需要进行延命治疗的时候，作为患者的家属，自然希望患者能够多活哪怕是一点点的时间，因此，在承诺书上签字的人很多。其结果，医院为患者进行各种各样的医疗处理，直至生命最后一刻，而患者的痛苦，也因此被拉得很长。相反，也有极少的例子是，病患因为接受了延命治疗，而最终使病情出现了好转。因此，是否进行延命治疗，可谓确实是一个很难作抉择的问题。听说，最近有很多医院不主张让癌症末期患者或是将近九十岁、各个器官都十分衰老的人接受延命医疗。病患的家属是否选择延命治疗；这是遗族对于病患本人的愿望到底是什么，这似乎是一个需要长期自问自答的问题。

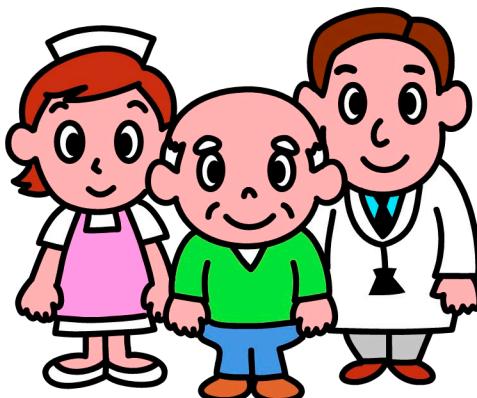
最近，在对自己无法进食，要靠医疗器具的帮助下才能生存这一方式持怀疑态度，认为这并非人自身所愿的人们中间，拒绝过剩医疗，“作为人而死得有自尊（尊严死）”的呼声越来越高。并且，作为“生前预嘱”（生前意愿），这些人在没有患病的时候，写下一纸意愿书，以表明自己对于万一进入生命末期时的抉择。据说这种源于美国的思维方式，现在已经广为人知。所谓生前预嘱，是指写一纸诸如“当我罹患的疾病，已经到了现下医疗水平无法医治的程度，且已临近死亡时，本人将拒

痛も伴います。ある医師の話ですが、はじめて療養型の病院（※注）で病棟を担当した時、全体の 70% は、意思疎通ができないまま、長年寝たきりで、チューブを通して栄養を摂っている状態だったため、人生観が変わるほどの衝撃を受けたそうです。勿論、延命治療をするかどうかは選べますが、問題は、延命治療が必要になった時、患者本人が自分の意志を示せるかどうかです。認知症患者に限らず、脳疾患や心臓疾患の発作で突然意識不明になった場合はどうなのでしょうか。医師が家族に対して、延命治療を希望しますかと聞いた時、家族としては少しでも生きていてほしいと願い、同意書にサインする場合が多いようです。その結果、最期の時まで、さまざまな処置を施され、結果として患者の苦痛が長引いたという話があります。その一方で、まれにですが、延命した後、好転した例もあるというだけに、本当に判断が難しいようです。最近では、末期がんや 90 歳近い老衰の場合、延命治療を勧めない病院が多いと聞きますが、延命を決断してもしなくても、残された家族は、本人はどうしてほしかったのだろうかと自身に問い合わせ続けることになります。

ところで最近、自分で食べ物を飲み込むこともできず、機械に生かされることが、自分の望んでいる生き方なのかと疑問を持つ人の間で、過剰な医療措置を受けないで「人として誇りをもった死（尊厳死）」を望む声が高まってきています。そして、そ

绝接受延命医疗”，以及“请最大限度地实施减轻本人痛苦的措施”的意愿书。用电脑打出来的生前预嘱，由于无法确认是否为当事者本人所写，因此将不被承认。所以，必须由当事人亲笔书写，并写上日期、姓名。此外，据说生前预嘱可以反复修改。

去年，迎来米寿之年（88岁）的母亲提醒我们说，“要是我自己无法吃东西了，我可不想插着管子活。”现在，我想当那一时刻真的来临时，我会尊重母亲的选择。同时，当我考虑到自己也终究会走到人生终点的时候，我也想写一份生前预嘱留给家人。



※注) 所谓疗养型医院，是指做完手术或实施完紧急治疗的人，为了做康复运动及疗养的医院。与一般医院相比，疗养型医院的患者多为因慢性疾患而长期住院的老人，因此，这类医院也有着老人医院的俗称。疗养型医院还分为医疗疗养型和护理疗养型两种，据说想以护理疗养为目的住院的话，需要接受护理保险之需护理认定后方可。

(H)

りびんぐわいる(生者の意志)として、  
元気な時から万一の場合に備え、終末期の  
医療について自身の希望を書いてあこうと  
いう動きになっています。もともとはアメ  
リカで生まれた考え方だそうですが、いま  
は広く知られるようになりました。リ  
ビングウィルとして、例えば「私の病気が  
現在の医学では治せない状態で、死期が迫  
ってきた時、延命措置はしないでほしい」と  
か、「苦痛を和らげる治療は最大限行つ  
てほしい」というようなことが書かれるそ  
うです。パソコンで書かれたものは、本人の意  
志かどうか確認できないため認められ  
ません。必 ず自筆で書き、日付を入れて署  
名します。また、リビングウィルは何度で  
も書き換えができるそうです。

さくねんべいじゅ 昨年米寿（88才の祝い）を迎えた母は、  
「自分の力で食べ物を飲み込めなくなったら、  
管なんか付けて生きたくないからね。」  
と家族に念を押すように言います。その時  
が来たら母の意志として受け入れようと、い  
まは思っています。そして、私自身もいずれ  
人生の終着点について考えるようにな  
った時には、リビングウィルを書き留めてお  
きたいと思っています。

※注) 療養型病院とは、手術など緊急性の  
ある治療を終えた後、リハビリや療養のために入  
る病院のことです。一般的の病院に比べて、慢性  
疾患で長期間入院する高齢者が多いため、老人病院とい  
う俗称もあるらしいです。  
療養型病院はさらに、医療療養型と介護療養型が  
あって、介護療養型に入院するには介護保険の要  
介護認定を受けなければなりません。 (H)